

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (41)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

Trump 氏のきわめて特徴あるメディア・時事英語(journalistic current English)文をたたき台とし、本協会の研究目標である「Basic 理論とその実践」を背景に、本連載では語彙論的な「語釈」(lexicological interpretations of English words)を試みているが、前々回(39)でも扱ったいわゆるロシア疑惑が晴れた後の彼の心中がよく見える tweet をさらに2例扱ってみる。

(1) When will the Radical Left Wing Media apologize to me for knowingly getting the Russia Collusion Delusion story so wrong? The real story is about to happen ! Why is @nytimes, @washingtonpost, @CNN, @MSNBC allowed to be on Twitter & Facebook? Much of what they do is FAKE NEWS ! (May 4, 2019)

▲Trump 氏はロシア疑惑が晴れたあと、長期に渡りそれを疑ってきたメディアや野党民主党に対し謝罪を求める tweet をいくつか書いていたが、これもその1つである。

「極左翼のメディアは知っていながらロシア共謀の幻想じみた話をでっち上げたが、いつ謝罪をするのか？真実がまもなく暴露される、なぜニューヨークタイムズ紙、ワシントンポスト紙、CNN、MSNBC はツイッターやフェイスブックに投稿が許されるのか？彼らの流す情報は大部分がフェイクニュースだ」という内容である。

Trump 氏の意外にお人よしの面が見え隠れしていないだろうか。この程度の柔らかなものでなく、公的に疑惑が晴れたなら普通はもっと彼らしくパンチのきいた強烈な謝罪の求め方でもよいと思えるがどうだろう。下の(2)での tweet も似たものである。

太線語 apologize (謝罪する) の原義はどのように把握されているだろうか？この語形をじっくり見るのである。語中に -log- がある。logic (論理)、monolog(ue) (独白)、dialog(ue) (対話) などが思いつくであろう。apologize は {apo (= from) + log (= word) + ize (= to make)} で、「謝罪」とは「罪を言葉(word)にして晴らすこと、罪から逃れるために言葉にすること」である。謝罪が言葉 (言語化すること) と関わる深みのある意味をもっていることが分かる。apologize とは言葉で何かに関して方向づけることで、someone apologizes to someone for something は英語での1つのパターン (型) として実現する。こういう表現はそのパターンを内在化(internalize)させるため反復トレーニングが必要。

太線語 **story** は「話・物語」の意味では Basic 語であるが、「階」の意味ではその範疇外の語となる。しかし本連載(39)の(2)で触れたが、歴史的には建築物の各階の窓に装飾として聖書などの物語が記されたことにも由来する。Basic で story を **floor** (階) の意味でも用いることとなると本会 *Year Book* No.73 (2021)などで、これまでたびたび触れてきた語としては1語たりとも(850+α)語の範疇を外すものではない筆者風の Wider Basic English (拡張 Basic) を設定すれば問題は処理できることになる。

また、本連載(30)などで扱った「触れること」が root sense (原義) のプラスα Basic 語 *taxi* の次のような用い方も Wider Basic の設定が、Basic か否かの厄介な問題の受け皿となる。次の例は数年前になるが、*Newsletter* (October 2017)での拙稿でも扱った。

(例) The plane is slowly taxiing down to the runway. 「飛行機は滑走路へ向けゆっくり移動中である」

飛行場で **taxi** という語が常識的に用いられるが、これは航空機の離着陸で「誘導路を移動する」の意味となり、その root sense である触覚的な「触れること(touch)」の意味に由来する。「税金」を意味する Basic 語 **tax** が物品に触れて税を課すことから来ているが、乗り物での「タクシー」の **taxi** も [< taximeter + cab (= carriage)] (金額・税金請求のための計器を備えた荷車) からの analogical inference (類推) で理解できるし、上文例での航空機の場合は離陸時にパイロットが各種の計器に次々に触れ、滑走路へ向け誘導路に車輪に触れさせ、まさに離陸態勢に入っている姿がイメージ化もされよう。この場合 **taxiing** は単に going でももちろんよいが、プラス α Basic 語 **taxi** をもう今日的には自動車の「タクシー」のみならず本来の root sense からも「飛行機が誘導路を移動する」の意味で Basic で (e): expansion (意味拡張) としてもよからう。

文中で下線とした **is** はこういうモノの羅列の場合必ずしも **are** である必要はなく、単数形でも誤りではない。WH 疑問文は一般には下降調の intonation となるので疑問符付けがしばしば見落とされもするが、英語の intonation を執拗に追うのは混乱を招き危険なことに意外に気づかれない。intonation は厳密には sound ではない。英語の intonation は日本語民族の聴覚で誰でも何ら問題なく すべて聴ける が、sound (音) が聴けないのである。そもそも [l] と [r] がネイティブ並みに聴けるか? である。本連載(31)の(1)でも例の1つに挙げたが、Basic 語の **flame** と **frame** の違いも明確に聴けないのが日本人の民族聴覚脳である。残念ながら英語で楽に聴けるのは intonation だけである。

太線語 **allowed** (許される) は本連載(35)の(1)で若干触れもしたが、改めて扱っておくこととする。これは [əˈlaʊ] という音からも推測できるが、賞賛を意味する擬音語という説がある。ただし一方で、{al (= to) + (l)low (= to put)} から「見えるよう下に置く (基底とすること、信頼を置くこと)」から来ているとも考えられる。Basic 語の **low** (低い) と **law** (掟・法律) は同系である。掟は「べからず」表記として木札に書かれ見上げるように高く掲げられる日本の (たとえば江戸幕府の) 御触書 (おふれがき) とは違い、西洋では低い所に書き置かれる。旧約聖書に記されるが、シナイ山(Mt. Sinai)でモーゼが神から授かった (許可された) 「十戒 (the Ten Commandments / the Decalogue)」は2基の石板に書かれ下 (基礎) に置かれた [出エジプト記 20 : 3-17、申命記 5 : 7-21 参照]。

allow, low, law はプラス α Basic 語 **layer** (層・階層)、また un-Basic 語の lie, lay などとも同系ということになるし、実は fellow (仲間) とも同系である。fellow は {fe (< fee = money) + (l)low (= to put)} で、「仲間」とは「分けあった金銭を下に置く間柄にある人」である [拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(87)、および第三部 p.186 参照]。

(2) After spending more than \$35,000.000 over a two year period, interviewing 500 people, using 18 Trump Hating Angry Democrats & 49 FBI Agents — all culminating in a more than 400 page Report showing NO COLLUSION — why would the Democrats in Congress now need Robert Mueller to testify? Are they looking for a redo because they hated seeing the strong NO COLLUSION conclusion? There was no crime, except on the other side (incredibly not covered in the Report), and NO OBSTRUCTION. Bob Mueller should not testify. No redos for the Dems ! (May 5, 2019)

▲ここではロシア疑惑は晴れても、あい変わらず民主党はまだこの問題を追究しようとしていたなかでの Trump 氏の思いとして書かれている。

2年間に渡り、3,500 万ドル以上の費用をかけ、500 人から聞き取り調査をし、18 人の反 Trump の民主党議員と 49 人の FBI 捜査官を使い、結果的に 400 頁以上の報告書で「共謀なし」となったものを、なぜ民主党議員はロバート・モラー特別検察官の議会証言が今になって必要だとするのか？共謀なしの確固とした結論を知るのが嫌でやり直しを求めているのか？犯罪行為は相手方なのに報告書には書かれていないのは信じられない、「司法妨害もなし」だったのだ、モラーは証言する必要はない、民主党議員のためのやり直しの必要などない！という内容である。

書かれ静止しているこの文を MSOE スクリーン上で動かせ順送りで回転させてみるが、発話の流れの中でどのスロットが空(くう) ϕとなるかも 1つのポイントである。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	After	ϕ	spending	more than \$ 35,000,000	over a two year period,
2	ϕ	ϕ	interview- ing	500 people,	ϕ
3	ϕ	ϕ	using	18 Trump Hating Angry Democrats & 49 FBI Agents —	ϕ
4	ϕ	all	culminat- ing	ϕ	in a more than 400 page Report
5	ϕ	ϕ	showing	NO COLLU- SION — /	ϕ
6	ϕ	ϕ	ϕ	ϕ	why
7	ϕ	the Democrats in Congress (∞)	would now need	Robert Mueller	ϕ
8	to	ϕ	testify? //	ϕ	ϕ
1	ϕ	They (∞)	are looking for	a redo /	ϕ
2	because	they	hated seeing	the strong NO COLLUSION conclusion? //	ϕ
1	ϕ	ϕ	ϕ	ϕ	There
2	ϕ	ϕ	was	no crime,	except on the other side

3	φ	φ	(incredibly not covered	φ	in the Report), /
4	and	φ	φ	NO OBSTRUC- TION. //	φ
1	φ	Bob Mueller /	should not testify. //	φ	φ
1	φ	φ	φ	No redos /	for the Dems ! //

(備考) 単一斜線 (/) は各文での意味的 2 分割線。最初の文での STR7・N₁ 中と、2 つ目の文での STR 1・N₁ 中の記号φはそれぞれ次の COP / V 中の最初の語を反転(reversion)させ疑問文となることを示す。また、文 There + be + N での N は N₁ ではなく N₂ と考える。

文中の太線語 **period** (期間) は {peri (= round) + od (= way)} であり、「ぐるりと一周すること」である。関連して **method** (方法) は {meth (= after) + od (= way)} で、「後を追う道のこと」である〔同上拙著、第二部、例(131)解説参照〕。

文中 2 つ目の太線語 **culminating** の意味は？ Basic 語によりどこが求められるか？求められる。英語のあらゆる語が Basic 語の意味を背景にもっていると言える。実はプラス α Basic 語 **column** (柱・円柱・縦列) と同系で、「徐々に高い所にたどり着く」という語感がある。この場合、後ろの空間詞 **in** と共起(co-occurrence)もしている。必ず「中に入り込んでいる」の意味となると推測してよい。**culminating in** は、**resulting in** と同義で「結果として～となる」の意味。**culminate, culmination, column** の音感から共通な原義の読み取りは上級レベルとはなるが、文脈推理で特に難しくなく解けもする。

文中 3 つ目の比較・対比を意味する太線の Basic 語 **than** は他の Basic 語 **then** (= after, if so) と意味的区別は元来はなかった。区別のついたのは中世の時代であったことを英語史は教える。同系語(paronym)ということである。たとえば **Mary is more beautiful than Nancy.** は <Mary is more beautiful, then Nancy. / Mary is beautiful. After Mary, Nancy is beautiful. > から、また **This pencil is longer than that.** は <This pencil is longer, then that pencil. / This pencil is long. After this pencil, that pencil is long.> のようなものから来た。なお、paronym は Basic 語 **parallel, part, separate**、比較・対比を意味する **comparison** ともちろん同系、さらに un-Basic 語 **prepare** などとも同系で **par** は「部分に分け、並べること」である〔同上拙著、第二部、例 (93) 参照〕。

文中の下線部 **NO COLLUSION conclusion** は韻(rhyme)を踏んでもいる。なお、EP 本では肯定・否定語の 'yes', 'no', 'not' は Bk I, p.30 で初出となるが、しぐさ等の non-verbal (非言語的) なものを含めた言語活動の基本からすればより早い提示が妥当であろう。EP 本での **grading** はそれほど明確であるわけでもない。絵も単にイラストなら漫画があるが、将来的に純意味論風の **lexigram** (語彙画像文字) に基づいた EP 本の全面的改編 (試案) も研究テーマの 1 つとされてよい〔本会 *Year Book* No.71(2019)、拙稿参照〕。